

2006年8月

会 員 各 位

日本ファイナンス学会  
会長(新) 新井 富雄

### 第 14 回大会および会員総会報告

日本ファイナンス学会第 14 回大会は、6 月 17～18 日の両日に東京大学本郷キャンパス大学院経済学研究科棟において開催され、小林孝雄大会委員長をはじめプロコミの皆様ならびに主催校関係者のご尽力により、熱心な議論とともにスムーズな大会運営が実現し、成功裡に幕を閉じることができました。関係各位に心より感謝する次第です。今回は、報告論文 70 本に達し過去最高となるとともに、参加者数も過去最高の 513 人を数える勢いとなり、たいへん喜ばしいものでした。盛んな報告セッションは 6 会場にわたり、行動ファイナンスを主題にした特別招聘講演 (Bruno Solnik, Professor, HEC School of Management) には 200 人を超える聴衆が集まりました。

また、大会開催中の 6 月 17 日午後 4 時 30 分より平成 18 年度会員総会が開かれ、別添資料の各議案が審議されました。重要事項、審議の概要は以下のとおりです。

- (1)第 7 期執行部案(資料 7)が承認されました。本年 2 月の理事選挙の結果をうけて形成された新執行部体制が、資料 7 のとおり承認されたわけです。任期は 18～19 年度の 2 年間です。
- (2)平成 17 年度活動報告が資料 1～4 のとおり説明され、原案どおり承認されました。
- (3)平成 17 年度会計報告・監査報告が、提案(資料 5)どおり承認されました。
- (4)平成 18 年度予算(資料 6)が提案され、原案どおり承認されました。
- (5)次期 19 年度大会は慶応義塾大学三田キャンパスで開催されることが提案され、承認されました。
- (6)2008 年度には Asian Finance Association と合同国際大会を東京において開催する提案がなされ、承認されました。

以上が、大会ならびに会員総会の簡単な報告です。新執行部は、皆様のご協力を得て学会運営に邁進するとともに、会員各位の研究活動が実り多いものであるよう祈念しております。学会活動についてご意見ご質問等あれば事務局までお寄せいただければ幸いです。

以 上

日本ファイナンス学会第14回大会

会員総会議題

日時：平成18年6月17日(土)午後16:30

会場：東京大学大学院経済学研究科棟第1教室

1. 平成17年度活動状況の報告

- ・会員状況(資料1)
- ・学会誌の発行状況(資料2)

*現代ファイナンス*

*International Review of Finance*

- ・第13回大会報告(資料3)
- ・研究観望会報告(資料4)

4. 平成17年度会計報告・監査報告(資料5)

5. 平成18年度予算(資料6)

6. 新執行部の承認(資料7)

7. 次期2007年第15回大会の開催校について

8. 2008年合同国際大会の日本開催について

以上

# 資料 1

## 日本ファイナンス学会 会員状況

平成 18 年 6 月 9 日(金)

	2006 年度	2005 年度	2004 年度	2003 年度
正会員	1379 名	1370 名	1158 名	1123 名
学生会員	0 名	0 名	218 名	190 名
会員数	1379 名	1370 名	1376 名	1313 名
特別賛助会員	25 社	25 社	26 社	32 社
純法人会員	32 社	33 社	32 社	24 社
法人会員合計	57 社	58 社	58 社	56 社

海外会員 23 名

新規加入 2006 年 6 月 9 日現在

	2006 年	2005 年	2004 年	2003 年
法人会員	2 社	3 社	5 社	4 社
個人会員	54 名	47 名	106 名	106 名

### 2005 年度に入会した法人

特別賛助会員 東京工業品取引所  
トリフォレックス(株)  
みずほ証券(株)

法人会員 新光証券(株)  
同志社大学大学院ビジネス研究科  
三井住友海上火災保険(株)  
ブランドベンチャーズ(株)

# 資料 2

学会誌報告

2006/6/17

## 『現代ファイナンス』に関する報告

論文投稿状況 (2005年4月~2006年3月) 合計 22本 (前年同期 25本)  
(大学関係者 16本、実務家 3本、大学関係者と実務家の共同論文 3本) (所属は執筆時)

No.18 (2005年9月発行)

審査対象論文数 合計 24本 (継続審査論文を含む)

審査結果 (掲載 7本、掲載不可 7本、継続審査 10本)

No.18 掲載論文

須田一幸 / 竹原均 「残余利益モデルと割引キャッシュフローモデルの比較」

岡田克彦 / 山崎尚志 「上場変更と株価の長期パフォーマンス」

野村哲史 / 宮崎浩一 「日経 225 オプションの織り込む株価過程の連続成分とジャンプ成分」

金子隆 / 渡邊智彦 「銀行借入 vs. 市場負債」

菅野正泰 「企業再生を考慮した負債価値の評価」

佐々木隆文 「退職給付会計における割引率の決定要因」

太田浩司 「予想利益の精度と価値関連性」

No.19 (2006年3月発行)

審査対象論文数 合計 22本 (継続審査論文を含む)

審査結果 (掲載 4本、掲載不可 7本、継続審査 11本)

No.19 掲載論文

Gary Gorton / 林 文夫 / K. Geert Rouwenhorst 「商品先物：日本の投資家にとっての効用」

中窪 文男 / 森棟 公夫 「レンジ及び日中データを使用した為替レートのボラティリティ予測」

室井 芳史 「三項分岐木モデルを用いた社債オプションの評価法について」

須藤 時仁 「発行政策と金利の期間構造 - 英米の比較分析」

No.20 (2006年9月発行予定)

審査対象論文数 合計 19本 (継続審査論文を含む)

『現代ファイナンス』2005年度収支

現代ファイナンス2005年度収支報告

2006/5/26

[収入]	2004年度繰越金			3,968,824
	2005年度出資金	MPTフォーラム	¥2,200,000	4,400,000
		日本ファイナンス学会	¥2,200,000	
	預金利息			37
2005年度総収入				8,368,861

[支出]	「現代ファイナンス」制作費	18	¥2,958,745	5,276,198
		19	¥2,317,453	
	支払手数料			1,680
	通信費、他			1,000
2005年度総支出				5,278,878

次年度繰越金 3,089,983

## International Review of Finance 誌に関する報告

2005年度には、以下の4号分（合併号2号）が発行された。

### International Review of Finance Vol. 4, No. 1/2, Mar/Jun 2003(合併号)

配布年月：2005年8月

部数：1600部

Contents:

**Jaclyn Beierlein and Hideaki Kiyoshi Kato** “*Do Uniform Price Auctions Trade-off Higher Risk for Higher Return?*”

**Philip Gray and Mark Whittaker** “*Future long-Horizon Performance Measurement Conditional on Past Survival*”

**Takao Kobayashi, Akihiko Takahashi and Norio Tokioka** “*Dynamic Optimality of Yield Curve Strategies*”

**Vijaya B. Marisetty** “*Measuring Productive Efficiency of Stock Exchanges using Price Adjustment Coefficients*”

### International Review of Finance Vol. 4, No. 3/4, Sept/Dec 2003 (合併号)

配布年月：2005年10月

部数：1600部

Contents:

**Krishna Ramswamy and Patrick Waldron** “*Looking for Spot in the Presence of Futures*”

**Alex W.H. Chan and Nai-fu Chen** “*A Theory of Currency Board with Irrevocable Commitments*”

**Alan Kraus and Amir Rubin** “*The Effect of Short Sale Constraint Removal on Volatility in the Presence of Heterogeneous Beliefs*”

**Anchor Y. Lin and Peggy E. Swanson** “*The Behavior and Performance of Foreign Investors in Emerging Equity Markets: Evidence from Taiwan*”

なお、International Review of Finance Vol. 5, No. 1/2, Mar/June 2005 (合併号)が近く（6月中）配布される予定。

以上

# 資料 3

## 日本ファイナンス学会 第 13 回大会（横浜国立大学）報告

第 13 回大会プログラム委員会  
委員長 浅野 幸弘

2005 年 6 月 11～12 日開催された第 13 回大会は、過去最高の発表論文数を得て、成功裡に終了することができました。ご関係各位に感謝申し上げますとともに、大会概要について、以下のとおりご報告申し上げます。

### 1 参加状況

参加申込：389 名（前年比 11.99%減）（うち個人 274，法人 56，特別賛助 59）

当日出席者：395 名（前年比 14.68%減）（うち個人 295，法人 47，特別賛助 37、他 16）

今回、申込ベースならびに実際参加者数とも前年比 12%減、14%減でした。会場の立地が理由とも思われますが、実勢としては極めて堅調な参加でした。応募論文数の多さにしても、非会員の参加が引き続き見られることなど、全般に、衰えはみられず増加基調は変わらないと見られます。

### 2 論文報告

研究報告数：58（前年比 4 増）、応募数 60（同 1 減）

特別招待講演、会長講演はありませんでしたが、「会計情報と証券市場」と題する特別セッション（パネルディスカッション）が行われ、注目をあびました。

また、発表論文数がおおきく増加し、報告会場（教室）を 4 会場に増やすなど、参加者も含め、研究層の広がりが感じられました。

### 3 会計報告（別紙大会収支表参照）

(1) 総収入は、懇親会費 336,000 円と例年なみ収入でした。また総費用はも 2,923,759 円と例年並の支出にとどまりました。（ただし前年比 13.14%減となりました。）この結果、学会会計負担（赤字）は 2,584,299 円となりました。

(2) 支出の増加した主要費目についてみると、以下のとおりです。

- ・ 予稿集印刷費は論文が 4 本増加するなどページ数もおおきく増加したものの、用紙の変更、印刷会社の値引き等により、97,916 円減少しました。
- ・ 懇親会は、大学内で済ませることができて比較的低廉な会場でしたので、480,000 円で済みました。（前年比 55.59%減。）申込者で 135 人、実際参加者数は約 100 人（事務局把握）を数えました。

以上

日本ファイナンス学会第13回大会収支  
 (横浜国立大学、2005年6月11~12日)

収入

懇親会費	336,000
その他	3,460

---

収入合計	339,460
------	---------

支出

<b>各種印刷費</b>		<b>1,443,776</b>
予稿集印刷費	899,955	
予稿集用紙代	300,979	
大会プログラム印刷費	119,648	
大会プログラム用紙代	6,644	
ポケットカード作成費	18,900	
大会総会資料	66,465	
特別セッション資料	31,185	
<b>郵送料等</b>		<b>255,912</b>
大会案内送料	127,142	
セッション関係者宛案内送料	5,680	
大会出欠用返信葉書	60,000	
発送作業費(封入費含)	63,090	
<b>案内板作成費</b>		<b>1,400</b>
<b>備品購入費</b>		<b>1,589</b>
<b>会場費</b>		<b>0</b>
<b>交通費</b>		<b>73,140</b>
特別セッション招待報告者交通費	60,000	
事務局交通費(高速代等)	13,140	
<b>休憩室用飲料等一式</b>		<b>33,988</b>
<b>アルバイト料</b>		<b>471,000</b>
学生	336,000	
社会人	135,000	
<b>弁当代</b>		<b>110,600</b>
<b>懇親会費</b>		<b>480,000</b>
カフェテリア・シェルシュ	480,000	
<b>その他</b>		<b>52,354</b>
事務局宿泊費	52,354	

---

支出合計	2,923,759
------	-----------

収支差	-2,584,299
-----	------------



# 資料 4

2006年6月17日

## 研究観望会活動報告

代表幹事 竹原 均

2005年第13回大会以降において、第11回、第12回研究観望会が開催された。これら2回の観望会は、盛況裡に終了するとともに、会員のための研究交流に資することができた。

### 第11回研究観望会

日 時： 2005年12月14日（水）

テーマ： 「金融実務でのコンピュータの活用方法」

報告者： 吉羽 要直（日本銀行金融研究所）

会 場： 学術総合センター2階会議室  
東京都千代田区一ツ橋2-1-2

出 席： 66人（個人43人、法人関係23人）（受付ベース 全115人）

### 第12回研究観望会

日 時： 2006年4月4日（火）

テーマ： 「M&Aに関するファイナンスの理論・実証研究」

報告者： 井上 光太郎（名古屋市立大学大学院経済学研究科）  
「米国におけるM&A研究の動向：買収、買収防衛と株式市場」

鈴木 一功（中央大学大学院国際会計研究科）

「日本におけるM&A研究の現状と論点整理：買収と企業業績、  
日本におけるコントロール・プレミアム」

会 場： 学術総合センター2階会議室  
東京都千代田区一ツ橋2-1-2

出 席： 117人（個人97人、法人関係20人）（受付ベース 全191人）

以上

# 資料 5

平成 18 年 6 月 17 日

会 員 各 位

日本ファイナンス学会  
監事 本多俊毅 倉田 勲  
竹原 均

## 平成 17 年度会計報告ならびに監査について

1 平成 17 年度会計は、学会誌 IRF の発行が 6 号分集中したため、支払のためドル預金が払底し、それに円資金 393 万円を急遽加えた支払が発生した。これが今年度の大きな特徴となった。しかし、基本的な会費収入が順調であったことや、堅実な支出に支えられ、収支戻 2406 万円（16.1%増）の次期繰越金を結果した。

まず基本となる会費収入は個人、法人とも増加し、総額 148 万円増加し、1699 万円（9.6%増）となった。個人会員は 1352 人相当額の収入となり、法人は 4 社、50 万円分増加した。ただ「その他収入」に米ドル MMF を円転した 265 万円が計上されているのが変則的だが、これは契約上ドル現金に換えることができないため、やむなく円収入として組み入れたものである。しかし直ちに IRF 支出に充当されているので、収入支出両面で形式上増加した形となっている。総収入の 4119 万円はこれを含んでいるので割り引いてみる必要がある。

なお今後、ドル預金が払底しているため IRF 購入のため多額の米ドルを購入せざるを得ないことに加え、08 年度に予定されている国際大会を考えると、現在の財政状態は決して十分とは言えない。

2 さて、支出をみると、前述のとおり IRF 6 号分として実質米ドル 6 万ドル（700 万円相当）支出したことが大きな特徴だが、ドル預金のすべてと円会計から 393 万円を充当したものの、経常的支出が堅調に推移し、2 年おき発行の会員名簿の発行がないこともあって、総支出は 1713 万円（431 万円、20.95%）にとどまった。この結果、収支戻は前述のとおり、2406 万円となった。

3 外貨(US\$)勘定は、前述のとおり IRF の支払いですべて払底し、残高は 36 ドルに過ぎなくなった。このため、新たに為替レートの有利な時に、IRF 支払いと国際大会のために、多くを購入せざるをえない状況となった。

4 現在の金融機関をめぐる環境は多少好転したものの、いまだ法人会員の低迷はなお続くが見られ、予断は許せない。加えて IRF 誌の維持や国際大会の開催等のための米ドル積立てが必須であることなどを考えれば、会計事情は依然きびしい状況にあるといえる。

5 以上、会計処理について正確かつ適正に処理されていることを承認するとともに、監査の結果を報告する次第です。

以上

日本ファイナンス学会平成17年度 決算会計報告  
(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

収入				支出		
<円勘定>				<円勘定>		
A	前年度繰越金		20,725,390	H	郵送料(郵便、宅配便等)	1,316,572
B	会費		16,993,000	I	電話・通信費(プロバイダー費用含)	229,474
	学生会員	5,000 × 26 =	130,000	J	発送作業費 (発送代行業者への支払等)	294,641
	正会員	8,000 × 643 =	5,144,000	K	学会案内等印刷費	315,840
	法人会員	50,000 × 33 =	1,650,000	L	理事会運営費 (理事会開催費・お弁当代等)	239,542
	特別賛助会員	200,000 × 19 =	3,800,000	M	封筒・用箋等作成費	261,975
		300,000 × 1 =	300,000	N	第13回大会費 (案内・報告要旨印刷・筆記具・昼食等)	2,923,759
		500,000 × 1 =	500,000	O	第14回大会準備費	201,578
	みずほファクター振替分	5,469,000	5,469,000	P	学会誌作成費 現代ファイナンス IRF3-3/4 ドル勘定へ振替(IRF支払用)	6,137,397 2,200,000 2,333,600 1,603,797
C	大会費		339,460	Q	事務用品購入費 (PCソフト・プリンタートナー等)	248,812
	懇親会費	4,000 × 84 =	336,000	R	アルバイト料	3,620,610
	二次会費		3,460	S	研究観望会費(2回) (研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	833,032
D	円預金利息		209	T	手数料支払 (みずほファクター、送金手数料等)	163,951
	前期 H17.8.22		96		残高証明発行手数料	630
	後期 H18.2.20		113		みずほファクター手数料(4回)	110,669
E	学会誌売上		143,880		IRF通関手数料(1回)	32,758
	現代ファイナンス		100,410		振込、送金手数料	19,894
	IRF		43,470	U	その他	50,000
F	大会予稿集売上		39,000		アナ協H17会費	50,000
G	その他		2,659,850			
	MMF解約金(ドル勘定より)		2,655,850			
	会費不足払い		4,000			
A+B+C+D+E+F+G 日本円合計				H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U 日本円合計		
				残 高		
				*内訳		
				預金(みずほ銀行 H18.3.31)		
				現金有高		
				¥24,063,606 *		
				¥23,962,596		
				¥101,010		

(次ページへ続く)

収入		支出	
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
a 前年度繰越金	US\$49,007.18	f IRF購入費(Vol.4-1/2,3/4)	US\$40,000.00
b 外貨普通預金利息	35.61	g 円勘定へ振替(MMFを解約)	22,660.83
前期 H17.8.22	21.69		
後期 H18.2.20	13.92		
c 外貨定期預金利息	34.08		
H17.4.18	34.08		
d 外貨MMF	295.15		
H17.4.27	28.74		
H17.5.27	37.36		
H17.6.29	35.67		
H17.7.28	36.80		
H17.8.30	44.55		
H17.9.29	42.87		
H17.10.27	42.23		
H17.11.10	26.93		
e 円勘定より振替	13,325.00		
a+b+c+d+e US\$合計	US\$62,697.02	f+g US\$合計	US\$62,660.83
		残 高	US\$36.19 *
		*内訳	
		普通預金(みずほ銀行 H18.3.31)	36.19
		定期預金(みずほ銀行 H17.4.18満期)	0.00
		MMF(みずほ信託銀行 H17.11.10解約)	0.00

平成18年 5月 20日

日本ファイナンス学会事務局 作成

正確かつ適正であることを認めます。

倉田 勲



竹原 均



本多 俊毅







外貨MMF 取引報告書

いつもお引立ていただきありがとうございます。  
 今回のお取引及び再投資の内容につきまして、下記の通りご報告いたします。  
 なお、ご不審な点がございましたら直接お取引店の支店長等責任者までご連絡ください。

お客様番号	名義	口座番号
48317366	1	2008840

160-0007 東京都新宿区

荒木町2-3  
 社団法人 金融財政事情研究会内

みずほ信託銀行

日本ファイナンス学会 御中

お取引店  
 新宿支店

2-026- 6\*000

電話 03-3350-2761

GS米ドルMMF		お取引前残高		2,263,390円		
約定日	受渡日	お客様のお受取金額		2,655,850円		
17/11/10	17/11/14	お取引後残高		0円		
取引ご決済	取引数量 (口)	受取分配金	受取分配金の内訳		精算金額 (買付は買付金額を、 売付はお手取額を表示)	お取引後残高 (口)
			課税対象 分配金	所得税 地方税		
前回の報告残高						2263390
売付円貨 お受取口数指定	2263390	26.93	33.61 3926	5.01 588 1.67 196	22660.83 2655850	0
単価1口= 0.01USドル		約定為替 117.20円/USドル		税金用為替 116.80円/USドル		
						- 以上 -

※売買手数料はいただいておりません。

※金額欄は上段：USドル 下段：円にて表示しております。

※精算金額：(1)円貨決済の買付金額=取引数量×単価×約定為替レート

：(2)円貨決済の売付金額=(取引数量×単価+受取分配金(外貨))×約定為替レート

収入		支出	
<円勘定>		<円勘定>	
A 前年度繰越金	17,259,644	H 郵送料(郵便、宅配便等)	1,165,315
B 会費	15,504,000	I 電話・通信費(プロバイダー費用含)	229,011
学生会員	5,000 × 84 = 420,000	J 発送作業費	122,058
正会員	8,000 × 545 = 4,360,000	(発送代行業者への支払等)	
法人会員	50,000 × 31 = 1,550,000	K 学会案内等印刷費	873,483
特別賛助会員	200,000 × 17 = 3,400,000	L 理事会運営費	285,877
	300,000 × 1 = 300,000	(理事会開催費・お弁当代等)	
	500,000 × 1 = 500,000	M 封筒・用箋等作成費	114,014
みずほファクター振替分	4,974,000	N 第12回大会費	3,366,158
C 大会費	602,000	(案内・報告要旨印刷・筆記具・昼食等)	
大会補助金(中央大学より)	250,000	O 第13回大会準備費	448,570
懇親会費	4,000 × 88 = 352,000	P 学会誌作成費	2,200,000
D 円預金利息	178	(現代ファイナンス)	
前期 H16.8.15	81	Q 事務用品購入費	79,155
後期 H17.2.21	97	(PCソフト・プリンタートナー等)	
E 学会誌売上	96,760	R アルバイト料	3,071,560
現代ファイナンス	84,760	S 研究観望会費(1回)	601,089
IRF	12,000	(研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	
F 大会予稿集売上	77,500	T 手数料支払	179,542
(切手支払による3件を含まず)		(みずほファクター、送金手数料等)	
G その他	6,000	残高証明発行手数料	630
IRF投稿審査料	6,000	みずほファクター手数料(4回)	127,459
		IRF通関手数料(1回)	47,726
		振込、送金手数料	3,727
		U その他	84,860
		アナ協H16会費	50,000
		事務局電話回線移設工事費	34,860
A+B+C+D+E+F+G 日本円合計	¥33,546,082	H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U 日本円合計	¥12,820,692
		残 高	¥20,725,390 *
		*内訳	
		預金(みずほ銀行 H17.3.31)	¥20,549,896
		現金有高	¥175,494





収入		支出	
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
a 前年度繰越金	US\$48,728.16		
b 外貨普通預金利息	12.09		
前期 H16.8.15	2.69		
後期 H17.2.21	9.40		
c 外貨定期預金利息	70.02		
H16.4.16	15.96		
H16.7.16	15.96		
H16.10.18	16.48		
H17.1.18	21.62		
d 外貨MMF	196.91		
H16.4.28	8.62		
H16.5.27	8.00		
H16.6.29	10.16		
H16.7.29	11.73		
H16.8.27	13.67		
H16.9.29	13.25		
H16.10.28	14.69		
H16.11.29	18.14		
H16.12.29	20.63		
H17.1.28	24.71		
H17.2.25	24.31		
H17.3.30	29.00		
a+b+c+d US\$合計	US\$49,007.18	US\$合計	US\$0.00
		残 高	US\$49,007.18 *
		*内訳	
		普通預金(みずほ銀行 H17.3.31)	10,641.50
		定期預金(みずほ銀行 H17.3.31)	16,000.00
		MMF(みずほ信託銀行 H17.3.31)	22,365.68


平成 17 年 5 月 20 日

日本ファイナンス学会事務局 作成

正確かつ適正であることを認めます。

表田 郵 

竹原 均 

本多 俊毅 

# 資料 6

平成 18 年 6 月 17 日

日本ファイナンス学会

会 員 各 位

日本ファイナンス学会

## 平成 18 年度予算について

- 1 「平成 18 年度予算書(案)」は別紙のとおりである。
- 2 まず会費収入については、昨年度の堅調な収入状況から個人会員 1150 人分を収入として見積った。法人会員・特別賛助会員については最近の景気好転をうけて前年なみの収入が確保可能と見積った。収入の基本である会費収入見込みは、この結果 1550 万円となった。繰越金 2406 万円、その他収入と合わせ総収入 4006 万円を計上した。
- 3 一方、支出は、今年度に会員名簿、入会案内等の発行が予定されているため、印刷費、発送費の増加が見込まれる。また、IRF 誌購入のため 460 万円を外貨勘定に繰入れ計上した。そのほかは、例年なみの支出を計上した結果、総支出は 1915 万円の見込みとなった。
- 4 以上から、翌年繰越金が 2091 万円と見込まれるが、国際大会のための蓄積、IRF 誌購入費の積立などのため、円ドル・レートの変動に積み増す必要があるため、財務運営に慎重な配慮をむけなくてはならない。

以上

日本ファイナンス学会平成 18 年度  
予 算 書(案)

平成 18 年 6 月 17 日

収入		支出	
< 円勘定 >		< 円勘定 >	
A 前年度繰越金	24,063,606	E 郵送料	1,200,000
B 会 費	15,500,000	F 電話・通信費	300,000
8,000 × 1,150 =	9,200,000	G 発送作業費	100,000
50,000 × 30 =	1,500,000	H 学会案内等印刷費	900,000
200,000 × 20 =	4,000,000	I 理事会運営費	300,000
300,000 × 1 =	300,000	J 封筒・用箋等作成費	250,000
500,000 × 1 =	500,000	K 大会経費	3,000,000
C 大会会費収入	300,000	L 学会誌作成費	2,200,000
D 出版物売上	200,000	M 事務用品購入費	150,000
		N 研究観望会・講演会経費	1,500,000
		O アルバイト料	3,600,000
		P 次回大会準備費	300,000
		Q 手数料支払い	250,000
		R その他	500,000
		S 外貨勘定へ繰入れ	4,600,000
A+B+C+D	40,063,606	E +F+G+H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S	19,150,000
		残 高 (円)	20,913,606
< US\$勘定 >		< US\$勘定 >	
A' 前年度繰越金	39.19	D' IRF 誌購入費	40,000.00
B' 外貨預金利息	0.00	(@25- × 1,600 部)	
C' 円勘定より繰入れ	40,000.00		
A'+B'+C'	40,036.19	D'	40,000.00
		残 高 (ドル)	US\$ 39.19

# 資料 7

2006 年度～2007 年度

## 日本ファイナンス学会 第 7 期 執行部

会 長	新井富雄 <sup>*</sup> (東京大学)	
副会長	大橋和彦 <sup>*</sup> (一橋大学)	
	小林孝雄 <sup>*</sup> (東京大学)	
常任理事	竹原 均 <sup>*</sup> (早稲田大学)	総務
	山口勝業 <sup>*</sup> (イボットソン・アソシエイツ)	総務
理 事	浅野幸弘 (横浜国立大学)	
	池尾和人 <sup>*</sup> (慶応義塾大学)	
	砂川伸幸 (神戸大学)	
	祝迫得夫 (一橋大学)	
	大村敬一 <sup>*</sup> (早稲田大学)	
	小幡 積 (慶応義塾大学)	
	加藤英明 <sup>*</sup> (名古屋大学)	
	川北英隆 (京都大学)	
	倉澤資成 <sup>*</sup> (横浜国立大学)	
	小林弘明 <sup>*</sup> (みずほ総合研究所)	
	坂口雄作 <sup>*</sup> (野村信託銀行)	
	高野 真 <sup>*</sup> (ピムコ・ジャパン)	
	谷川寧彦 (早稲田大学)	
	土岐大介 <sup>*</sup> (ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント)	
	広田真一 (早稲田大学)	
	本多俊毅 <sup>*</sup> (一橋大学)	
	米澤康博 <sup>*</sup> (早稲田大学)	
	渡部敏明 (一橋大学)	
		*被選出理事、無印は会長指名。
監 事	太田 亘 (名古屋大学)	
	鈴木一功 (中央大学)	
	倉田 勲 (金融財政事情研究会)	

(順不同)

以上